DIVERSITY SUPPORT OFFICE

DSO Newsletter

No. 153、 2023. 12. 22

DSO連携機関　公開イベントの案内

■サイエンスフェス2023

【行事名】サイエンスフェス2023
【対　象】中学生・高校生（女子）
【日　時】2024年1月20日 13：00-16：00
【内　容】実験体験、女性研究者とのラウンドテーブル（懇談会）
【場　所】筑波大学５C棟
【開催機関】つくば市・筑波大学
【申込方法】関連情報、申込締切1月4日　定員46名　無料
https://diversity.tsukuba.ac.jp/events/event/sciencefes2023
申込フォーム　https://forms.office.com/r/MGwRCngpXc

【問合先】筑波大学ヒューマンエンパワーメント推進局
E-mail：rikejo@un.tsukuba.ac.jp
H　P：https://diversity.tsukuba.ac.jp/

＜編集・発行＞ ダイバーシティ・サポート・オフィス事務局
〒305-8687 茨城県つくば市松の里１　国立研究開発法人 森林研究・整備機構 森林総合研究所 ダイバーシティ推進室内
TEL： 029-829-8360　FAX：029-874-8507　E-mail：dso-secretary@ffpri.affrc.go.jp　URL：https://www.ffpri.affrc.go.jp/geneq/dso/index.html

■物質・材料研究機構ダイバーシティ推進セミナー参加報告

【日　時】2023年11月14日（火）14時～15時15分
【行事名】物質・材料研究機構ダイバーシティ推進セミナー
【方　法】オンライン（Zoom Webinar）
【主　催】物質・材料研究機構（NIMS）人事室

標記のセミナーにオンラインで参加しました。このセミナーは視覚障碍をテーマとしており、視覚に障碍がある研究者と視覚障碍者福祉の専門家のお二方から講演がありました（ここでは講師の古川氏に従って「障碍」と表記します）。

講演１「webアクセシビリティ国際基準から考える障害者への接し方：ダイバーシティとは？」石井真史氏（物質・材料研究機構マテリアル基盤研究センター　主席研究員）

講演タイトルにあるwebアクセシビリティ国際基準は視覚障碍者への配慮も含むガイドラインであり、障碍者と健常者が良好な関係を築くための指南書的な役割を果たすという指摘が印象的でした。ガイドラインは万能･完全ではないものの、実生活で視覚障碍者とどのように接すればよいか最低限確保すべきことを示しているとのことでした。
ウェブコンテント・アクセシビリティガイドラインの4原則は、知覚可能、操作可能、理解可能、堅牢（ずっと継続されるものであること）であり、この原則に沿って考えることの重要性を説かれました。たとえば、時間依存メディアには代替コンテンツを提供することとなっていますが、障碍があっても定常的なものには対処しやすい（具体的には、部屋の床に置かれたものがあっても、ずっと同じ場所に置かれているものであれば、視覚障碍者は障害物があると認知して、避けて歩くことができる）ということです。
こうしたことを健常者が理解しておくことで、障碍者とともに仕事をしたり日常生活を送ったりしやすくなると気づきました。

講演２「視覚障碍概論と雇用管理サポートの対応事例」
古川智行氏（茨城県立視覚障害者福祉センター）

国内にいる障碍者は約559万人で、そのうち身体障碍が429万人と最も多く、さらにその中で視覚障碍者は31万人ということです。視覚障碍者の中で、点字で情報を入手している方は7.6%に過ぎないそうです。視覚障碍者の多くは緑内障、網膜色素変性症などの病気によって後天的に視力を失ったり弱視になったりするため、自分の障碍を受容するのに時間のかかる人もいるという話しでした。
視覚に障碍が生じると、日常生活や歩行、文字処理などに不自由さを感じるようになるため、それを克服するための手段として、本人が訓練するのみならず、ICTや便利グッズの活用、各種制度・サービスの利用、周囲の人のソフト面での協力など、さまざまなことの組み合わせが大切だということが示されました。

次ページに続く

DSO参加機関　公開イベント参加報告

前ページより続く

古川氏の担当する雇用支援人材ネットワーク事業では、おもに事業者からの依頼で障碍者への対応について研修等を開催しており、ケーススタディを通じて多くの人の理解促進に努めることが、障碍について知らないことで生じていた社会的障壁を取り除くきっかけとなるということです。たとえば、こうした研修で、健常者が障碍による不自由さを体験してみたり、障碍のある人とコミュニケーションをとって情報共有を図ったりすることで、知見を広げるとともに、障碍者が孤立しない環境を整えることにつながるということが提示されました。

お二人の講演を聞いて、視覚障碍の持つ特性について自身の理解が進んだ気がします。障碍にはさまざまな種類があり、どのように対処するのが適切なのか異なる部分があります。このようなセミナーをはじめ、いろいろな機会を通じて各種の障碍に対する理解を深めることが重要であると感じました。

この記事は、森林研究・整備機構ダイバーシティ推進室ウェブサイトに掲載したものの採録です。同ウェブサイトには、DSOのイベント案内や参加報告を掲載しています。ご笑覧いただければ幸いです。

https://www.ffpri.affrc.go.jp/geneq/index.html

ニュースレターへの記事をご寄稿ください！

「DSO Newsletter」は各DSO参加機関へ、それぞれで働く方へ、また広く外部に向けて情報発信するツールとして原則毎月最終週に発行しております。掲載を希望する記事がありましたら、数行の記事でも結構ですのでぜひお寄せください。

・シンポジウムやセミナー、講演会など、イベントのお知らせ
・最近行なわれたイベント報告、あるいは参加報告
・最近取組中のこと
・その他、お役立ちや関連情報

宛先：dso-secretary@ffpri.affrc.go.jp

参加機関内外への当Newsletterの紹介も歓迎いたします。バックナンバーはDSOホームページにてご覧いただけます。

ダイバーシティサポートオフィスのご案内

ダイバーシティ・サポート・オフィス（DSO）は、平成19年度に始まり、男女共同参画などダイバーシティに関わる活動を連携して推進しています。参加機関相互のイベント等の機会提供、情報交換を行なっています。現在は２１の研究教育機関がイコールパートナーシップで運営に参加する開かれたDSOとして活動しています。

*DSOメンバー：産業技術総合研究所、森林研究・整備機構、物質・材料研究機構、農業・食品産業技術総合研究機構、千葉大学、筑波大学、神戸大学、土木研究所、国立環境研究所、国際農林水産業研究センター、防災科学技術研究所、高エネルギー加速器研究機構、理化学研究所、宮崎大学、上智学院、岡山大学、宇宙航空研究開発機構、大阪大学、量子科学技術研究開発機構、建築研究所、情報通信研究機構（加入順）

＜編集・発行＞ ダイバーシティ・サポート・オフィス事務局
〒305-8687 茨城県つくば市松の里１　国立研究開発法人 森林研究・整備機構 森林総合研究所 ダイバーシティ推進室内
TEL： 029-829-8360　FAX：029-874-8507　E-mail：dso-secretary@ffpri.affrc.go.jp　URL：https://www.ffpri.affrc.go.jp/geneq/dso/index.html